



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

秋田赤十字乳児院

平成25年10月1日発行

理念

私たちは、赤十字精神のもとに、子どもたちの最善の利益を守り、健やかな成長を図ることのできる愛情のこもった保育看護を提供します。

広報誌 第31号

よちよちちゃん



ひよこ組

ハイハイのスピードが増してきたAくん。追いかける保育者を振り返ってはパタパタパタ。隣のお部屋や院庭もひるまずどんどん進んでいきます。そんな活発なAくんは絵本の読みきかせが始まると猛ダッシュ。お話しに合わせてお辞儀をしたり、覚えたてのワンワンを見つけ出すのに大忙しです。

(佐藤(順))



ちっちゃなひじゃっこ(正座)がかわいいね。

ぱんだ組

少しずつ、色んな事が出来るようになってきた子どもたち。お散歩のあと、靴下をよいしょ〜っと引っ張って“自分で脱げるよ”とがんばっています。脱いだ靴下は、洗濯機の中にポイ！お手伝いも上手になりました。大人の様子を見て、真似しているようです。たまに、おもちゃも入ってますけど…

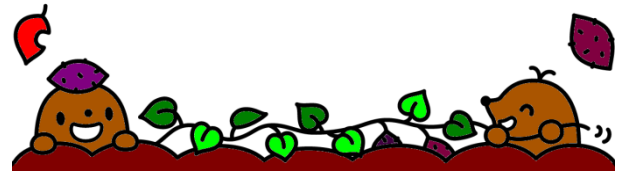
(森川)



靴下ビヨーン、脱げないよ〜



保育室ダイアリー



ばんび組

散歩前の出来事…“レッツゴー！”のジェスチャーをして、みんなより先に出発するKくん。それに気付いたIちゃんは「一緒に！」と言って、“一緒に行く”のジェスチャーで伝えます。手を挙げて“はい”と応えるKくん。どうやらIちゃんの思いは届いたようです。(赤次)



“待っててね”“みんなと一緒に行くよ！”

ことり組

近ごろ『おすもう』に興味津々のRくん。テレビに映る相撲力士の迫力にじーっと見入っていたかと思えば、次の瞬間「のこった！のこったー！」の掛け声とともにお友だちと相撲ごっこ。

今日も勇ましい姿を見せてくれるRくんです。

(田澤)



はっけよーい！



～保坂美貴子院長に インタビュー～

院長は毎朝、子ども一人ひとりとあいさつを交わし声をかけてくれる、みんなのお母さんです。秋田赤十字病院に13年。その後「子どもと携わる職場っていいな」と、当院の看護師長として21年間子どもたちを見守り続けてきました。



今後の乳児院について「社会情勢は、乳児院の小規模化および家庭的養護（里親委託）の推進に向かっています。その変化を受け止め、当院も里親さんの教育機関を兼ね備えるなど、必要とされる乳児院を目指していきたい」と強調しました。

今後、職員に求めるものは「日々、子どもたち一人ひとりに合わせた養育が提供されていると感じています。現在の養育のレベルを落とさず、各自自己研鑽しレベルアップに繋げてほしい。皆が協力し合い、変化に対応していきたい。」と温かい眼差しの中にも、強い決意が感じられました。

食育体験「さんま」を堪能♪



そうやって
骨取るんだね！

秋だな～
このさんまは
脂がのってるぜ！



炊き出し体験 ～児童養護施設交流会～

夏休み恒例となった施設交流会。今年は“赤十字の炊き出し”を企画しました。無洗米と水を耐熱袋に入れて輪ゴムで留め、大鍋に投入して30分。炊きあがった熱々のご飯でカレーライスが見事に完成しました。子どもたちは「初めて体験した」「ご飯固くできちゃった」など感想を言い合いながら、自分の作ったご飯に満足げでした。引率の先生からも「なかなか体験できないことができて良かった」と好評でした。

この夏、大きく成長した乳児院卒業生の姿にたくましさと、喜びを感じた一日でした



袋詰めしたお米を大鍋に投入中

もっとクロス

「乳児院ボランティア 吉野さん」が
本社ホームページで紹介されました！



詳細は、「日本赤十字社HP」>「Voice of Volunteer～あなたにとって、ボランティアとは？～」をご覧ください。

編集後記

2020年東京オリンピック決定に歓声をあげる招致委員の中に本県出身の金メダリストの姿を見た。凱旋時に開催されたバレーボール教室に参加しサインを頂いた記憶がある。世界を相手に活躍する先輩を誇りに思う。さあ、7年後に向けて準備を始めよう。もちろん観戦ですよ。（進藤）

■編集・発行 秋田赤十字乳児院
〒010-0041 秋田市広面字釣瓶町 100-3
TEL 018-884-1760 FAX 018-884-1762
電話相談 018-884-1761
URL <http://www.akita.jrc.or.jp/nyujiin/>